

第4章 文化財に関する既往の把握調査

1 文化財の把握調査の状況

これまでの水俣市の文化財の把握調査状況は以下のとおりです。

表 14 文化財の類型ごとの把握調査の状況

分類		市内全域	
有形文化財	建造物	△	
	美術工芸品	絵画	△
		彫刻	△
		工芸品	△
		書跡・典籍	△
		古文書	○
		考古資料	△
歴史資料	△		
無形文化財		×	
民俗文化財	有形の民俗文化財	△	
	無形の民俗文化財	△	
記念物	遺跡	△	
	名勝地	△	
	動物・植物・地質鉱物	△	
文化的景観		×	
伝統的建造物群		×	
文化財の保存技術		×	
埋蔵文化財		△	
その他地域資源		△	

○：調査済み △：調査中 ×：未調査

表 15 既往の把握調査等一覧（令和6年8月現在）

把握調査

類型	調査主体	年代	報告書名・調査名など	
有形文化財	建造物	水俣市立図書館	昭和50年代	水俣市石造物調
		熊本県教育委員会	昭和62年	1987 熊本県文化財調査報告第85集 熊本の近世社寺—熊本県近世社寺建築緊急調査報告書
		熊本県教育委員会	平成3年	1991 熊本県未指定文化遺産調査Ⅰ 建造物編（建築物・眼鏡橋・石造物）
		熊本県教育委員会	平成11年	1999 熊本県文化財調査報告第182集 熊本県の近代化遺産 近代化遺産総合調査報告
		熊本県教育委員会	令和6年	2024 熊本県の近代和風建築 熊本県近代和風建築総合調査報告書
有形文化財	美術工芸品	熊本県教育委員会	昭和54年	1979 熊本県文化財調査報告第33集 熊本県古文書等所在確認調査
		熊本県立美術館	昭和58年	1983 県内主要寺院歴史資料調査報告書（三）（人吉・球磨 芦北・水俣地区）資料編
		熊本県立図書館	平成9年	1997 熊本県古文書等所在確認調査
		熊本県立図書館	平成15年	2003 歴史資料調査
		同志社大学人文科学研究所	平成29年	2017 水俣市所蔵・淇水文庫徳富蘇峰寄贈図書目録
無形文化財	—	—	—	
民俗文化財	有形	熊本県教育委員会	昭和41年	1966 熊本県文化財調査報告第7集 熊本県民俗資料調査報告
		水俣市立図書館	昭和50年代	水俣市石造物調（再掲）
	無形	熊本県教育委員会	昭和63年	1988 熊本県文化財調査報告第97集 熊本県の民謡
		水俣市教育研究所	昭和63年	1988 みなまたの昔話
		熊本県教育委員会	平成元年	1989 熊本県民俗芸能緊急調査
熊本県教育委員会	平成3年	1991 熊本県文化財調査報告第120集 くまもとの民俗芸能		

類型		調査主体	年代		報告書名・調査名など
民俗文化財	無形	熊本県教育委員会	平成 5 年	1993	熊本県未指定文化遺産調査Ⅲ 民俗編（祭り・行事）
		水俣市教育研究所	平成 5 年	1993	みなまたのむかしばなし
		水俣市公民館	平成 5 年	1993	みなまたことだま
		水俣市教育研究所	平成 8 年	1996	みなまたのむかしばなし
記念物	遺跡	文化庁	昭和 41 年	1966	全国遺跡地図：史跡・名勝・天然記念物および埋蔵文化財所在地図・熊本県
		熊本県教育委員会	昭和 53 年	1978	熊本県文化財調査報告第 30 集 熊本県の中世城跡
		文化庁	昭和 56 年	1981	全国遺跡地図・熊本県
		熊本県教育委員会	昭和 57 年	1982	熊本県文化財調査報告第 60 集 熊本県歴史の道調査－薩摩街道
		財団法人観光資源保護財団（日本ナショナルトラスト）	昭和 62 年	1987	水俣の歴史・文化環境と薩摩街道
		熊本県教育委員会	平成 10 年	1998	熊本県遺跡地図
	動物植物	水俣市教育研究所	昭和 61 年	1986	水俣の自然をたずねて
		水俣市教育委員会	平成 5 年	1993	ふるさとの樹木
	地質鉱物巨樹	熊本県希少野生動物植物検討委員会 熊本県環境公害部環境保全課	平成 6 年	1994	芦北・水俣地域における希少野生動物植物の実情と保護方策【調査報告書】
		名勝地	熊本県教育委員会	平成 24 年	2012
文化的景観	—	—	—	—	
伝統的建造物群	—	—	—	—	
保存技術	—	—	—	—	
その他					
		調査主体	年		タイトル・調査名
		水俣市・寄り会みなまた	平成 3 年	1991	地域資源マップ
		水俣市・寄り会みなまた	平成 6 年	1994	水の経路図（水のゆくえ）水めぐりのよい水俣
		水俣市・寄り会みなまた	平成 14 年	2002	地域人材マップ集 水俣のお宝大辞典

個別の調査

調査主体	年代		報告書名・調査名など
水俣市	平成 8 年	1996	徳富蘇峰・蘆花生家保存修理工事報告書
熊本県教育委員会	昭和 53 年	1978	熊本県文化財調査報告第 30 集 熊本県の中世城跡
熊本県教育委員会	昭和 61 年	1986	熊本県文化財調査報告第 81 集 熊本県旧石器時代調査報告書
水俣市教育委員会	平成 2 年	1990	水俣市埋蔵文化財調査報告第 1 集
熊本県教育委員会	平成 12 年	2000	熊本県文化財調査報告第 189 集 長野遺跡 九州新幹線（八代・鹿児島）建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告
水俣市教育委員会	平成 19 年	2007	水俣市文化財調査報告第 1 集 水俣城跡
水俣市教育委員会	平成 21 年	2009	水俣市文化財調査報告書第 2 集 陣内台地遺跡
水俣市教育委員会	平成 21 年	2009	水俣市文化財調査報告書第 3 集 日当野瓦工場粘土採掘跡調査 県営中山間総合整備事業に伴う文化財調査報告書
水俣市教育委員会	平成 25 年	2013	水俣市文化財調査報告書第 4 集 水俣城跡・古城遺跡
水俣市教育委員会	平成 27 年	2015	水俣市文化財調査報告書第 5 集 水俣城跡
水俣市教育委員会	令和元年	2019	水俣市文化財調査報告書第 6 集 銅銭鑄造跡 南九州西回り自動車道芦北出水道路水俣 IC 建設に伴う発掘調査報告書
北園遺跡発掘調査団	令和元年	2019	北園遺跡 熊本県水俣市板石積石棺墓発掘調査報告書
熊本県教育委員会	令和 2 年	2020	熊本県文化財調査報告第 340 集 北園上野古墳群

（1）総合的な把握調査

本市では、市史がこれまで3回刊行されています。昭和34年（1959）刊行の『市制10周年記念市史みなまた』、昭和41年（1966）刊行の「水俣市史」、平成3年（1991）刊行の『新水俣市史上・下』、平成6年（1994）刊行の『新水俣市史（民俗・人物編）』があり、市の通史がまとめられるとともに、多くの文化財に言及しています。

『新水俣市史（民俗・人物編）』は、古き良き時代の生活や習慣を肌で感じてもらえるような民俗誌を残したいとの思いから、それまでの市史に取り上げられていなかった民話、民謡、民俗芸能、年中行事、くらしぶり（農業・漁業）、民具などの民俗分野の文化財のほか、寺社仏閣、祠などの神仏、石碑、地名の由来、名木、ことわざなどが掲載されています。

昭和50年代に行われたと思われる水俣市立図書館による石造物調査は、碑、神像、仏像、一字一石塔、山神の祠など石造のものに限らず、寺社、絵馬、鏡など多くの有形文化財が把握されており、総合的な把握調査と言えます。

（2）文化財類型ごとの把握調査

1）有形文化財

建造物は、熊本県が行った調査があります。平成11年（1999）には、近代化遺産の総合調査が行われ、本市では石橋を含む橋梁を中心に把握されましたが、その他多くの近現代の遺産は把握が進んでいません。平成27年（2015）からは、明治から昭和初期にかけて伝統的な技法や様式で建てられた和風建築の把握が行われました。また、これらの熊本県の調査で把握されていた物件のうち、その後取り壊されたものがあります。

寺社内の社殿、鳥居・灯籠などの石造物、その他土俵や棧敷などの構造物は、把握調査が進んでいません。近年では、地域住民での神社の管理が難しくなっており、神社の移転や、社殿の改修などの相談が寄せられています。

彫刻では、室町時代までの仏像の把握が行われています。

古文書は、熊本県立図書館による調査が行われています。平成15年（2003）の『歴史資料調査』では、古文書のリストと共に1点ごとの詳細を記録した調査票が作成されています。

2）無形文化財

本市では、茶の栽培が行われており、手もみ製茶の技術がありますが、本市全域を対象とした把握調査は行われていません。

3）民俗文化財

有形の民俗文化財で山神、水神など信仰に関するものは、昭和50年代に図書館が行った石造物調べで把握されています。民具は、昭和62年（1987）から数年間、現物を収集する事業が行われており、現在、市が保管しています。

無形の民俗文化財の民謡、民俗芸能は、熊本県の調査、市史編纂などを契機に把握されています。

本計画の作成にあたり実施した市民アンケートでは、「文化財を保存し、次世代に適切に継承していくために、あなたが協力できそうなこと」の問いに対し、「地域の祭りや伝統行事への参加」の回答が最も多くあり、同アンケートの「具体的に力をいれるべき文化財」でも、「地域の祭り」は票を集めています。しかし、寺社や地域で行われる祭礼や伝統行事は把握が進んでいません。祭りに必要な人材が確保できず、行事が縮小している例も見られます。風習についても、本市全域を対象とした把握調査は行われていません。

郷土食では、平成16年（2004）の第17回熊本県民文化祭において、海岸部・市街地・山間地の家庭料理を集め、実食する「食の生活文化祭」を実施しました。それぞれに違う

食文化があることを把握できましたが、成果の整理が行われていません。

4) 記念物

遺跡は、薩摩街道の調査が熊本県による「歴史の道」調査をはじめとしてこれまで数回行われ、街道の推定位置とともに、周辺の文化財が把握されています。それらの成果をもとに、その跡を示す標柱が建立されています。薩摩街道の保存状態のよい範囲は、文化庁の「歴史の道百選」に選定されています。薩摩街道に付随する番所跡やその他の街道は把握が進んでいません。また明治時代まで続いた塩田に関連する遺跡の把握は進んでいません。街道跡や塩田に関連する遺構は、その後の土地利用により、痕跡の把握が難しくなってきました。

名勝地では、湯の児のリアス海岸や、湯出の水俣大滝、亀嶺峠が分布しますが、本市全域を対象とした把握調査は行われていません。

動植物は、熊本県希少野生動植物検討委員会と熊本県による調査が行われ、多くの希少動物が把握されるとともに、これらが多数生育している無田湿原の熊本県の自然環境保全地域指定の根拠になっています。

巨樹は、平成5年（1993）に市が刊行した『ふるさとの樹木』により把握されています。

地質鉱物は、昭和61年（1986）に水俣市教育研究所が刊行した『水俣の自然をたずねて』により、様々な地形や地質が把握されています。

5) 文化的景観

本市には、棚田、ハゼ畑、茶畑の景観が分布していますが、本市全域を対象とした把握調査は行われていません。

6) 伝統的建造物群

現時点では、本市には伝統的建造物群の候補となる建造物のまともは見られません。

7) 保存技術

本市では、漆喰修繕に必要な技術として左官技術が挙げられますが、本市全域を対象とした把握調査は行われていません。

8) 埋蔵文化財

周辺の埋蔵文化財包蔵地として、現在91箇所が把握され、『熊本県遺跡地図』に掲載されています。

(3) その他

本市には、地域資源を見つめ直し、それを大切にしながら、地域づくりに活用していこうというスタンスのもと把握が行われたものもあります。

寄る会みなまたでは、地区毎に、自然・文化・歴史・伝統芸能などの有形・無形の地域資源を再発見し、イラストマップとしてまとめた『地域資源マップ』が刊行されています。

また、同じく寄る会みなまたでは、各地区で、飲料水・農業用水・生活用水等の水の行方を調査して、まとめた、『水の経路図』を作成しました。